



1979年、当時の駐日米国大使・マン
スフィールド氏が来熊。これをきっかけに、1982年7月、同氏の出身地であるモンタナと熊本は、姉妹提携を結びました。今年で9周年を迎える同州との交流は、英語教員のモンタナ派遣、県・州職員の相互派遣、大学間交流など様々な分野で活発に展開されています。

「地方の国際化」を積極的に進めている熊本県の活動や状況をレポートする本シリーズ。第1回は、姉妹提携先の一つ、米国モンタナ州の紹介と、交流の状況をお伝えします。



ミニ・ニュース MINI NEWS

5月29日から6月3日にかけて、モンタナの産品を広く熊本に紹介する「アメリカンフェア」が開かれました。自家製の毛糸を使った手織みのショールや木をくりぬいて作った時計、ケスラービールなどが出品され、大盛況をおさめました。



手織りのショール



木をくりぬいて作った時計

Big Sky Country Montana

ビッグ・スカイ・カントリー モンタナ

県の姉妹州モンタナは、別名「ビッグ・スカイ・カントリー」。世界的に有名なロッキー山脈が州の西部を縦走。純白の雪に包まれた山々や氷河を持つ州北部のグレイシャーと、多くの間欠泉を持つ南部のイエローストーンの二つの国立公園には、大森林が広がっています。そこは、美しい湖や河川をたたえ、野生動物が闊歩する——、雄大な自然に囲まれた地域です。一年を通して湿度が少なくカラッとした気候、まさに「ビッグ・スカイ・カントリー」の名にふさわしい所です。

広大な森林地帯を背景にした木材・木製品開発の可能性、石炭・石油・天然ガスといった膨大な地下資源、そし



て勤労意欲にあふれた人々。産業分野が秘めている大きな力は、モンタナのますますの発展を期待させます。

一方で、オールド・ウエスト——古き良き西部の面影が各地に残り、街角では今でもカウボーイハットやブーツ、ジーンズが、ビジネススーツと同様に愛用されています。

州内の都市では人ごみが少なく、ショッピングをしたり、博物館に出かけたりと、ゆったりとした快適な生活が送れます。

近代的な生活環境、オールド・ウエストの伝統、そして大自然。モンタナは多くの魅力にあふれている所です。



「ジャパン熊本フェスティバル」風鈴太鼓公演

人と人との出会いが 大きな交流へ

本県とモンタナの交流は、今日、主として経済・教育を柱に取り組みられています。

アメリカン・ロッキーの感動の中から — 生徒の一言 —

モンタナの印象

- ビッグスカイ
- 自然と一体化出来る。きれい。
- やさしい人々
- 広い、広い、広すぎる!
- 自然が多く、とても親切
- 大自然

ロッキーの翼で得たもの

- 友達
- 人の親切。積極的になった。
- たくさんありすぎて一言でいえない
- 世界の広さ。人々の優しさ
- 言葉は通じなくても心が通う
- アメリカの生活習慣

経済面では、昨年十月ミズーラ市で「熊本モンタナ合同会議」を開催。併せて開かれた「ジャパン熊本フェスティバル」では、高森町の風鈴太鼓演奏や県産クラフト展、県内在住の作家・歌人による文学講座などが催され、五千人を超える参加者を集めて好評を博しました。

教育面では一九八二年から県下の高校生をモンタナに派遣する「アメリカン・ロッキーの翼」を展開。ホームステイを中心に組まれたスケジュールで、実際に米国の生活に触れ、国際理解の促進と友好交流を図るこのプログラムで、多くの青少年が交流の絆を培っています。

民間レベルでは一九八九年、「モンタナクラブ」が設立されました。モンタナとの交流を支援しようという団体・個人が集まり、モンタナ州に関する情報提供などの活動を進めています。

こういった経済、教育、文化など幅広い分野での官民にわたる交流の積み重ねで、熊本とモンタナはさらに強いつながりを築き上げています。